

被爆者とともに、核兵器のない 平和で公正な世界をー 人類と地球の未来のために

原水爆禁止2023年世界大会

広島と長崎に原子爆弾が投下されて今年で78年になります。今年の原水爆禁止世界大会は、4年ぶりに制限のない開催となりました。大田原水協からは、16名が現地で長崎大会に参加しました。オンラインでも配信され12人が視聴しました。台風

1日目は開会式でした。会場には2300人、オンラインで1500人、合計3800人の参加ということでした。世界各国、若者男女さまざまな人の姿が見え、活気がありました。こんなにくさん人がいて、ここにいるみんなが『戦争、核兵器反対』を望んでいることに感動しました。

実際に見て感じた核兵器、戦争の残酷さ

大田歯科 山口圭稀

切な情報を流したとされ、家宅搜索、拘束されたとビデオの視聴後にアナウンスされました。このウクライナの方は間違えたことをしたのでしょうか？僕はそうは思えませんでした。戦争をしていることが間違いだと思いました。

2日目は元々分科会のみで予定でしたが、台風の影響で閉会式も2日目に行うことになったので結構タイトなスケジュールになりました。本来は分科会が終わった後、大田代表団のメンバーで遺構巡りをするということになっていましたが、分科会の後に閉会式が入ったため、遺構巡りは中止になりました。

せっかく来たのに外を歩いて見られないのはもったいないと思ったので、午前の分科会には参加せずに遺構巡りをしました。平和公園、爆心地、旧城山国民学校校舎、浦上天主堂、原爆資料館を見てまわりました。いろいろと実際に見て、核兵器、戦争の残酷さを感じました。二度と繰り返してはいけない



長崎の平和祈念像の前で、大田歯科山口さん

私の価値観を変えた大会参加

大田病院 伊藤 彩夏

原水爆禁止世界大会に参加して、私は広い世代の平和に対する関心の重要性を実感させられました。私自身、ニュースはインターネットを通して、自分が興味を持っていることの知識を得ることが多かったです。今回世界大会に参加し、平和と安全保障を各国の政府は確保する責任があり、その一つが非核化だと思いました。核兵器は無差別で威力の非常に高い破壊兵器であり、使用すれば人類に壊滅的な被害をもたらすことを、実際原爆資料館に行き目で見て実感しました。

日本が非核化を宣言することで、核兵器競争を抑制し、国際的な緊張を緩和させることにつながっていきます。非核化を守ることが、国際的な平和と安全のことだと思えます。そして職場のみんなと患者さんで協力して作った千羽鶴を爆心地公園に捧げてきました。長崎の街のいたる所に千羽鶴が捧げられているのを見て、一つ一つの千羽鶴にはたくさんの人の想いが詰まっているんだと感じました。

そして、午後は閉会式に参加しました。会場に2800人、オンラインで1500人、合計4300人の参加でした。高校生や大学生の若い人が壇上でスピーチしているのを見てとても立派だなと思いました。他にもたくさんの方がスピーチしていて、それを聞いて涙を流している人をたくさん見かけました。戦争、核兵器反対、平和を願う気持ちが集結したこの会場で多



大田代表団で記念撮影



折り鶴を捧げる 大田病院伊藤さん

持つ側と持たない側の意見を聞くことができました。今の世界情勢では核の危機は高まっており、その中で唯一の被爆国である日本の立場は重要だと思いました。アメリカやロシアの核の脅しに負けず、安全で平和な世界をつくるために、原水爆禁止を訴えていくことが重要だとわかりました。今回原水禁大会に参加してみて、核兵器に対し抵抗している人のお話を聞けたこと、平和と

認知症Q&A

No. 55

回答はグループホーム 虹の家みちづか看護師 大澤千恵子さん

Q お酒は認知症の発症と関係がありますか？

A 「酒は百薬の長」と信じて、お酒をたしなんでいる方が多いと思いますが、アルコール依存者、大量飲酒者には脳の萎縮が高い割合で認められることがわかっています。また、週1回以上飲酒する人の調査で飲酒量が増えるほど認知症のリスクが高くなることもわかっています。

私が出会ったアルコールに起因する認知症の方々

原因は、アルコールを分解するために、体内のビタミンB1が消費されるのですが、脳内のビタミンB1、B12など栄養が欠乏し、記憶障害、感情コントロール困難、幻覚などの症状が

第50回大田区生活展 4年ぶりに会場での開催

城南保健生協も加盟している大田区消費者団体連絡会が中心となって開催している大田区生



骨密度測定にたくさんの方が訪れました

活展。新型コロナの影響で2020年は中止、2021年、2022年はweb開催でしたが、今年は生活センターを会場にリアル開催されました。

今回のテーマは「地球にやさしい生活を！身近なことから変えていこう」です。生活展も50回目を迎えるということで、記念プログラムを作成し、会場内に写真でみる生活展の歴史コーナーを設置しました。

久しぶりの開催なので多くのの方が来場するか不安もありましたが、オープニングから多くの方が訪れ、例年以上の盛り上がりとなりました。城南保健生協では骨密度測定で参加し、59名の方が測定を受けました。

ようになり、硬膜下血腫（頭を打って脳出血する）を起こしてしまい、認知症が急激に進行しました。

Bさんは、お酒を飲むと顔が赤くなるタイプ（アルデヒドの代謝が悪いのです）。飲酒する機会が増え、酒を好きになっていきました。初夏の暑い日、食事はしないがビールは飲むという生活をし、アパートで意識不明の状態で見送られました。脱水、熱中症状態でした。そして軽い認知症から一気に進行していきました。

健康によいアルコールの飲み方は

1日の量：ビール500ml以下、日本酒180ml以下、ワイン200ml以下とし、週休二日以上にすることとされていますので、飲み過ぎないようにすることが大切です。